

三ヵ月であった。明治十二年の医師試験制度によって開業試験制度は面目を一新する。この制度による受験願書には修学履歴書を添付することになっており、三年以上の修業の実績を明記したものでなければならぬと明治十五年の通達が出ているが、ほとんどの人がこの条件を満たしている。

江戸時代後期の医学は、漢方医学、古方医はようやく漢蘭折衷派に移り、他に折衷派（考証学派）があり、新しくオランダ医学を主とした洋方医学の三つの派があり、当時の一〇三人の医師をこの三派に分けて、年齢、修学地、修学期間等についても検討し報告する。

（山県郡医師会史編纂委員会）

済生学舎廃校の歴史

唐 沢 信 安

済生学舎を源流とする日本医科大学の校史にとって、明治三十六年八月末日の長谷川泰校長の廃校宣言に至る過程には、今日なお謎とされる点が多々ある。

(一) はたして済生学舎は、入沢達吉の説のように、長谷川泰の単なる気まぐれと、金の出しおしみで廃校宣言を出したのか。

(二) 済生学舎と今日の日本医科大学は、本当に関係あるのか。

(三) 磯部檢藏は本当に日本医科大学の学祖なのか。

右の三つの問題点は、今日まで日本医科大学の卒業生の心を痛めてきた大きな問題点である。

そこで筆者は数年を要して、東京都公文書館、長谷川泰

の生家のある新潟県長岡市福井町の生家跡の農家に保存されてきた数々の書簡、川上元治郎の遺品、山根正次の子孫の家に大切に保管されていた講演原稿、写真、書類等、さらに磯部検蔵の生家、養家の調査によりその遺品、手紙、墓石等新たな史実を発見し、解明したので報告する。

済生学舎の創立者、長谷川泰は天保十三年（一八四二）に越後国古志郡福井村（長岡藩）に生まれている。明治九年四月九日、長崎医学学校校長を辞した泰は本郷元町一丁目六六番地に済生学舎なる私塾を開校した。

泰は身辺を飾らず、齒に衣をきせず、ずげずげ物をいう豪快な人柄であった。明治初期から末期にかけて男女共学で、九千余名の有資格者の医師を世に送っている。その中には、野口英世や吉岡弥生等多くの学者や有能な士を養成している。

明治二十三年になると、森鷗外、賀古鶴所、小金井良精、青山胤道等が会談して、済生学舎の教育方針を批判痛罵するようになる。それは森鷗外の『医育論』の中で見ることが出来る。

明治三十一年の暮から翌年の春にかけて「医師法案事件」

というものが起ってきた。全国の開業医四万人で組織する大日本医会が、医師の権利を求めて提出した「医師法案」なるものが、衆議院を通過したが、貴族院で否決されたのである。

それは一部の東大赤門派の医師、入沢達吉・田代義徳を中心とする「医師会法案反対同盟」が貴族院への激しい働きかけにより、否決の憂き目をみたのである。

時あたかも長谷川泰は後藤新平の後を受けて、時の衛生局長の要職に就いていた。したがって大日本医会の幹部でかつ政府の委員である泰は、激しい東大派閥の攻撃の目標とされた。

勢いに乗った東大赤門派（以後明治医会と称す）は、済生学舎の行っている「医術開業試験」のための学問を全廃させ、医術開業試験そのものを中止して、国立の大学と官立医学専門学校のみとする医学教育の統一を夢みていた。すなわち私立の医学校のすべてを廃止して官立の医学校のみとする原案を主張した。

その思想は医師の差別論が根本思想にあって、医師とは東大や官立医学校を卒業した者のみが医師であって医術開

業試験の合格者や多くの地方の漢方医出身の医師とは、同じ法律の上で論ずることはできぬといった、官尊民卑の思想よりこの医師会法案事件は起っている。

それらの闘争の末、明治医会と文部省は協議の上、「専門学校令」を明治三十六年三月に勅令として出し、泰に迫った。

それによると、文科系の学校には黒板とチョークがあれば大学昇格を認める。しかし済生学舎だけは、基本金と維持金をもちなさい。建物は官立並みに建てなさい。教員は文部省のお気に入りを用意なさい。病院を建てて学生の充分な臨床実習に応えなさい。それも一年以内^にに実行しなければ、廃校とみなす。調査を行って不備があればその場で廃校とみなす。…といった済生学舎を潰すための厳しい専門学校令を作って長谷川泰を苦しめた。

泰はギリギリの線まで退き、人知れず苦悩し抜いた。禅の道（仏門）に入ることすら考えた。その結果の廃校である。

残念なことに、後に残る学生の身の上まで考える余裕がなかったことは後世悪口のもととなった。時に明治三十六

年八月三十日のことであった。その時の学生五百余名が石川清忠を中心に私立東京医学校を設立。また桂秀馬と川上元治郎は一部の学生の救済にあたり、それを山根正次が引き受けて日本医学校と名づけ、秘書の磯部檢藏が助けた。明治四十三年両校は合併して今日の日本医科大学となった。

（日本医科大学）